

第2回第4期つくば市教育振興基本計画策定委員会次第

日 時：令和7年（2025年）3月13日（木）

午前10時から正午まで

場 所：つくば市役所本庁舎2階 防災会議室(2)(3)

1 開 会

2 議事

第4期つくば市教育振興基本計画の施策体系について

3 閉 会

配布資料

資料番号	資料名
資料1	令和6年度「幸せな学校づくりに向けたアンケート」結果
資料2	つくば市教育振興基本計画 課題シート
資料3	つくば市教育振興基本計画施策体系（第3期・第4期）

第4期つくば市教育振興基本計画策定委員会 委員名簿
(任期：令和6年(2024年)12月19日から令和8年(2026年)3月31日まで)

No.	選出区分	役職名	氏名	備考
1	(1) 学識経験者	筑波大学教授	樋口 直宏	
2	(1) 学識経験者	茨城大学名誉教授	正保 春彦	
3	(2) 保護者	つくば市PTA連絡協議会会長	森田 修司	
4	(3) 学校長	谷田部東中学校長	永井 英夫	
5	(3) 学校長	並木小学校長	大村 千博	
6	(4) 幼稚園長	荃崎幼稚園長	富田 昌生	
7	(5) 教育委員	つくば市教育委員	和泉 なおこ	
8	(6) 市民	—	肥後 範行	
9	(6) 市民	—	西村 結美	
10	(6) 市民	—	中郡 奈々	

令和6年度「幸せな学校づくりに向けたアンケート」結果

1. 最も肯定的な回答(あてはまる、楽しい、よくある)
2. やや肯定的な回答(どちらかといえばあてはまる、どちらかといえば楽しい、ときどきある)
3. やや否定的な回答(どちらかといえばあてはまらない、どちらかといえば楽しくない、あまりない)
4. 否定的な回答(あてはまらない、楽しくない、まったくない)

カテゴリー	質問項目	市全体					肯定的な回答の割合(1+2)
		1	2	3	4	1+2	
学校生活の充実感	1 学校が楽しい	49%	38%	9%	4%	88%	
	2 授業の時間	27%	48%	17%	7%	76%	
	3 児童・生徒会活動(委員会活動など)	37%	39%	16%	8%	76%	
	4 休み時間	79%	17%	2%	1%	97%	
	5 クラブ活動や部活動	71%	21%	5%	3%	92%	
	6 給食の時間	62%	29%	6%	2%	92%	
	7 学校行事(運動会、文化祭、音楽会など)	71%	21%	5%	3%	93%	
	8 友だちと一緒に過ごす時間	87%	11%	1%	1%	98%	
	9 先生とお話する時間	44%	40%	11%	5%	84%	
授業の充実感	10 授業では、夢中になって学んでいる時間がある	41%	40%	14%	5%	81%	
	11 学校の授業を通して学ぶ楽しさを感じている	37%	40%	17%	6%	77%	
	12 できるようになった、わかったと思える授業が多い	47%	39%	11%	3%	85%	
個別最適な学びと協働的な学びの往還(主体的・対話的で深い学び)	13 授業では自分の生活に結びつけて考えようとしている	28%	46%	21%	5%	74%	
	14 授業で学んだことを、生活の中でいかそうとしている	35%	43%	18%	4%	78%	
	15 学校の授業では新たな発見や気づきがある	43%	43%	11%	3%	86%	
	16 授業ではなぜ「どうして」「どうやって」という気持ちをもって学んでいる	41%	40%	15%	4%	82%	
	17 授業では、試したり考えたり(試行錯誤)を繰り返しながら、課題の解決に取り組んでいる	39%	43%	15%	3%	82%	
	18 つくばスタイル科では、自分が感じた疑問などを解決する学びの機会がある	38%	43%	15%	4%	80%	
	19 授業では、学習の方法やペースを自分で選びながら学んでいる	45%	39%	13%	3%	84%	
	20 授業では、自分が必要な時に、仲間と協力しながら学んでいる	61%	30%	7%	2%	91%	
	21 授業では、いろいろな人と学ぶことで、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	48%	38%	11%	3%	86%	
子どもが自己決定できる学校環境	22 学校には、自分の気持ちを分かろうとしてくれる仲間がいる	64%	27%	6%	3%	92%	
	23 学校には、自分の気持ちを分かろうとしてくれる先生や大人がいる	53%	34%	9%	4%	87%	
	24 学校には、安心できる居場所がある	54%	30%	9%	7%	84%	
	25 自分の考えや意見を伝えやすい学級・学年だと思う	44%	39%	12%	5%	83%	
	26 あなたの考えや意見が大事にされていると感じる	35%	42%	16%	7%	77%	
	27 学級や学校をよりよくするために、一人一人の意見や考えを大切にしながら、みんなで話し合っている	46%	39%	11%	4%	85%	
	28 みんなのがんばりや挑戦を応援している学級・学年だと思う	55%	33%	8%	4%	88%	
	29 日々がんばれるような、自分なりの目標を持っている	50%	34%	11%	5%	84%	
	30 目標に向かって、自分を振り返りながら進めている	42%	38%	14%	6%	80%	
幸せに向かうために育んでほしい非認知能力	31 分からないことや、できないことがあったとき、なんとかしようと思う	55%	35%	7%	3%	90%	
	32 どんな学び方や進め方が自分には合うのかが分かっている	42%	36%	15%	7%	78%	
	33 自分には「よい」と思えるところがある	51%	33%	10%	6%	84%	
	34 自分を大切に思っている	51%	33%	10%	6%	84%	
	35 自分とは違う考えや気持ちをもっている人の話でも、最初から否定しないで聞くことができる	56%	36%	6%	2%	92%	
	36 たいいていことには、「自分はきっとできる」と思って取り組んでいる	41%	39%	14%	5%	81%	
	37 自分は、失敗したとしても、その経験を次に生かそうという思いがある	46%	37%	12%	5%	84%	
	38 挑戦しようとする気持ちをもって、様々なことに取り組んでいる	47%	36%	13%	4%	83%	
	39 学校で困ったことがあったとき、誰かに助けを求めることができる	49%	33%	11%	6%	83%	
社会貢献意識	40 将来の夢や希望をもっている(あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたい など)	59%	23%	10%	8%	82%	
	41 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	42%	39%	12%	6%	81%	

1, 10~12, 22~41 → あてはまる、どちらかといえばあてはまる、どちらかといえばあてはまらない、あてはまらない

2~9 → 楽しい、どちらかといえば楽しい、どちらかといえば楽しくない、楽しくない あてはまらない ※回答割合は「あてはまらない」と回答した子どもを母数から除いて算出

13~21 → よくある、ときどきある、あまりない、まったくない

基本目標1 幸せな人生を送るために一人ひとりの「学び」を大切にする

基本方針1 未来をひらく力を育む

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標1 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成 目標4 グローバル社会における人材育成 目標5 イノベーションを担う人材育成 目標6 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成 目標13 経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 個別・双方向の学びの推進 施策2 幼児教育の充実 施策3 学校外の学びの充実</p>
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 個別・双方向の学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問いから始める学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・問いから始める学びの充実のための授業の転換は、学校の状況や課題が学校ごとに異なるため、全市的に一気に転換することは難しい。そのため、それぞれに合ったアプローチをする必要がある。大きく訪問の形式を変更して1年目に当たるため、今後も継続して改善していく。(学び推進課) ○全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用の進展が急速に進む教育現場においては、新しいソフトやAIなど、教員が新たに学ぶことが増えているため、しっかりと授業準備や振り返りに使える時間の確保が重要である。(学び推進課) ○つくばスタイル科によるプロジェクト学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・先進的ICTや自然・地域素材の活用や、研究者や大学教授等との連携により、より充実した学習を進めるため、つくば版エドテックを活用して多様な教育コンテンツや地域人材を紹介する必要がある。(学び推進課) ○小中一貫教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流の好事例を市内学校で共有するなどして、多様な実践が展開されるよう努める。(学び推進課) <p>施策2 幼児教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な経験につながる豊かな遊びの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが遊び込めるようにするため、環境作りや支援のタイミングは重要である。また、遊び道具や教材の工夫が個々の発達段階に応じていることも大切である。それらを達成するために、保育者が発達段階を理解し、子どもたちの様子を日々把握しながら、興味や関心を適切に理解した上で、教材や環境作りを進めていくことが今後の課題である。(学び推進課) ○学びに向かう力を育む幼児教育 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者は、子どもたちの発達段階を考慮しながら、子どもたちが自ら遊びを通じて学ぶ力を育んでいくことが大切である。しかし、小学校での学習内容を先取りしようとし、遊びや子どもの自由な発達を制限してしまうことがある。自主性や創造力を損なわないよう、保育者が遊びを中心に非認知能力を高めるための保育を実施できるよう、保育者の研修を深めていくことが課題である。(学び推進課) ○幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの接続性を高めるための検討が進んでいるものの、実際の実施において、幼児教育と小学校教育の活動内容や方法等がスムーズに移行できない等、各施設間でのカリキュラム内容の調整が十分でないことがある。また、幼児教育施設と小学校の職員が相互に授業や保育を参観することで学びの連続性を意識しているものの、授業や保育参観後、フィードバックや意見交換がなく、どのように改善すべきかの具体的な話し合いが不足する等、連携や情報共有が不十分な場合、一貫性に欠けてしまうことが課題である。(学び推進課) ○幼稚園・家庭・地域の連携による教育力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・研修会が実施され、職員間の理解は深まるものの、日常の保育や授業での連携や情報共有が十分

つくば市教育振興基本計画 課題シート

	<p>に進んでいない場合がある。職員間の協力体制を十分に機能させるためには、研修後のフォローアップや定期的な情報交換の機会が必要である。地域との連携では、活動の調整やスケジュールの設定がスムーズに進むように、計画的に取り組んでいくことが課題である。（学び推進課）</p> <p>施策3 学校外の学びの充実</p> <p>○実体験を大切に学ぶの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の開催時期の考慮と市として支援できる内容を明確に示すことが必要。補助金の申請については、毎年、同団体からの申請が多く、他団体との平等性に懸念がある。（生涯学習推進課） <p>○非認知能力を高める学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幸せな学校づくりアンケート」を継続して行い、経年変化を見ていくこと、また、子どもの生活状況や心理面を把握する「icheck」質問も併せて各学校が、引き続き非認知能力の重要性を感じられるようにしていく。また、医療的ケア児や特別支援学級の子ども達への合理的配慮、食物アレルギーのケア、安全面の確保など、多様な子ども達が増えている状況の中で、学校が校外学習を行うことには、様々リスクが伴うため、限られた学校職員では対応しきれない状況が生まれている。そのため、このような活動を持続可能にするためには、保護者や地域の理解と協力がより一層必要であり、今後は欠かせない条件となる。（学び推進課） ・特に入学説明会時に家庭教育セミナーを行う場合、時間に制限があり学校の負担にもなりかねないため、別の機会に社会教育指導員が訪問して家庭教育について説明を行うようにする等の工夫が必要である。（生涯学習推進課） 	
アンケート調査結果 《参考》	調査結果概要	問番号
	<p>個別最適な学びと協働的な学びの往還：協働の学び</p> <p>「授業では、自分が必要な時に、仲間と協力しながら学んでいる」に“肯定的”な割合が91%</p>	問20
	<p>個別最適な学びと協働的な学びの往還：本物の学び</p> <p>「授業では、自分の生活に結びつけて考えようとしている」に“肯定的”な割合が74%</p>	問13
統計データ等	<p>（令和6年度全国学力・学習状況調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器の利用頻度について、「ほぼ毎日」が26.3%と、全国、茨城県より高くなっている。（小学生） ●1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたかについて、「ほぼ毎日」が36.0%と最も高く、全国より高く、茨城県より低くなっている。（中学生） ●授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますかについて、小学生では「当てはまる」が47.4%と、全国と同程度、茨城県より低くなっている。中学生では、「当てはまる」が49.7%と最も高く、全国より高く、茨城県より低くなっている。 ●総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますかについて、小学生では「当てはまる」が35.4%と、全国、茨城県より低い。中学生では、「当てはまる」が30.0%と、全国、茨城県より低い。 	
次期計画に向けた課題	<p>施策1 個別・双方向の学びの推進</p> <p>本市では、個別・双方向の学びを推進していく上で、学校ごとに異なる状況やニーズに対応するため、それぞれの学校に合ったアプローチが求められます。</p> <p>また、令和6年度全国学力・学習状況調査結果をみると、小学生、中学生ともにICT機器の利用頻度について「ほぼ毎日」が全国平均より高くなっています。ICT活用やAI導入により、教員が新しいツールや技術を学び続ける必要があり、そのための授業準備や振り返りの時間が十分ない課題があがっています。さらに、プロジェクト学習を推進するためには、地域の資源や外部人材と連携することが重要であり、効果的に活用するための体制づくりが必要です。さらに、小中一貫教育で異学年交流を進めるには、学校間での情報共有と実践の場を広げる必要があります。</p> <p>施策2 幼児教育の充実</p> <p>本市の幼児教育においては、子どもたちが遊びを通じて学べる環境づくりや教材の工夫が重要であり、保育者が発達段階を理解し、日々の観察に基づいて適切な支援を行うことが求められます。</p> <p>また、学びに向かう力を育むため、保育者は遊びを中心に非認知能力を高める保育を行うべきですが、小学校の学習内容を先取りしすぎることが懸念されます。さらに、幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行が進んでおり、今後も、地域や家庭の環境にかかわらず、全てのこどもが、格差なく質の高い学びへ接続できるよう、学びの連続性を踏まえ、幼保小の関係者が連携し、こどもの発達にとって重要な遊びを通じた質の高い幼児教育・保育を保障しながら、幼児教育・保育と小</p>	

つくば市教育振興基本計画 課題シート

学校教育の円滑な接続の改善を図ることが必要です。

さらに、幼稚園、家庭、地域との連携による教育力の向上は進んでいるものの、引き続き情報共有や協力体制の強化が必要です。

施策3 学校外の学びの充実

本市の学校外の学びには、実体験を重視した事業の開催時期や市の支援内容の明確化が必要となっています。

また、非認知能力を高める学びでは、「幸せな学校づくりアンケート」や生活・心理面を把握する取り組みが進んでいますが、医療的ケア児や特別支援学級の子どもたちへの対応にはリスクが伴い、限られた職員での対応が難しくなっています。そのため、保護者や地域の協力が不可欠となり、持続可能な活動のための支援体制の充実が必要です。

令和6年度全国学力・学習状況調査結果をみると、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますかについて、小学生、中学生ともに「当てはまる」が茨城県より低くなっています。また、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますかについて、小学生、中学生ともに「当てはまる」が全国、茨城県より低くなっています。今後も、複雑かつ困難な社会課題の解決や持続的な社会の発展に向けて、課題解決力・コミュニケーション力といった資質・能力の育成が必要です。

さらに、家庭教育セミナーの実施においては時間的制約があり、学校の負担を軽減するための工夫が必要です。

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本方針2 豊かな心と健やかな体を育む

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標2 豊かな心の育成 目標3 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成 目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する</p>
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 豊かな心の育成 施策2 健やかな体の育成 施策3 学びの場の感染症対策の徹底</p>
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳性は学校生活だけに限られたものではなく、家庭や地域社会において児童生徒の具体的な行動を支える内面的な資質を育成することが求められる。このことから、地域人材を活用することで、地域社会とのかかわりについての思いを深めたり、多様な価値に気付いたりする活動を今後も積極的に行っていく必要がある。(学び推進課) ○人権教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・人権の課題や内容は多岐にわたるが、各学校においてなかなか全ての課題や内容を網羅することはできない。(学び推進課) ○情操教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の豊かな自然を教材としたり、他者との交流や協働を意識した探究学習を通して、継続的に情操豊かな児童生徒の育成を目指していく必要がある。(学び推進課) ○芸術文化活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術課や文化振興財団と連携しながら事業実施者の情報を把握し、学校へ情報提供を図ることで円滑な事業実施に努める必要がある。(教育総務課) ○読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校ごとに、図書の貸出数や利用者数に差があることが課題である。県主催の「みんなにすすめたい一冊の本」推進事業においても、取組状況や達成者数に差があり、児童生徒における読書活動推進を継続する必要がある。(学び推進課) ・児童・生徒に本や読書に興味を持ってもらうためには、ブックトーク実施にあたり、本の選定やシナリオ作成が重要となることから、専門的知識を持った職員を継続的に採用していく必要がある。また、自動車図書館では、児童・生徒がより多くの図書に触れられるよう、継続的に良質な図書を収集していく必要がある。(中央図書館) ○いじめを防止する取組の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・弁護士に講師をお願いしているいじめ防止授業は、講師人員の確保や予算の確保等の問題で希望する学校全てで実施できていない。(学び推進課) <p>施策2 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健学習・食育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における、運動習慣や望ましい食の習慣を形成するために、学校教育の活動のみで対応することは難しい。真に子どもたちの健康に寄与するものとするためには、保健に関する家庭向け文書の周知やコミュニティ・スクールにおいて協議議題に取り上げるといった家庭や地域との連携が必須である。(学び推進課) ・食育授業を行う生産者が固定化されているため、他の生産者にも普及させることが課題となっている。(健康教育課) ○安全教育の充実と防災教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な自然災害や多様な事件・事故の危険性がある現代社会においては、未知の状況にも適切な意思決定をし、行動することができるスキルや人間性の育成が求められている。このことから、常に情報をアップデートしたり、あらゆる場面を想定した訓練や会議を通してブラッシュアップしたりしていく必要がある。(学び推進課) ・学校防災連絡会議については、各学校の地域特性や学校の規模に合わせた取組が実施できるよう、講師の情報提供等に努めていく必要がある。(教育総務課) ○学校保健の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断や就学時健康診断等を実施するに当たり学校医等との日程調整が困難である。(健康教育課) ○部活動への支援と適正な実施

つくば市教育振興基本計画 課題シート

	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員においては、学校とのマッチングにおいて、全ての学校の希望に対応できていないことや部活動指導員の確保が課題である。（学び推進課） ・全国及び関東大会への出場補助金の在り方については、部活動の地域移行の状況を注視しながら、検討していく必要がある。（教育総務課） <p>施策3 学びの場の感染症対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策の指導、実施 <ul style="list-style-type: none"> ・体調が悪い場合の休養は、各家庭の判断に委ねる部分も多いため、無理をして登園・登校しているとみられる事例もある。（学び推進課） ○集団感染のリスクへの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・マスクの着用が同調圧力によるものであると感じ、外すことに懸念を感じている児童・生徒もいる。（学び推進課） ○重症化のリスクの高い園児児童生徒等への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・疾患へのリスクを抱える多様な園児児童生徒への対応を、個に応じて学校は一つ一つ考えていく必要がある。（学び推進課） ○教職員の感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することで、常に教職員の生活を情報で縛ることもつながってしまう。特に、体調不良で休養している際や夜間又は早朝など、時間・状況に対応した情報の取り扱いに配慮が必要である。（学び推進課） ○感染が広がった場合における対応 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の流行が発生した際、感染した児童・生徒の罪悪感等、感染した側、感染させてしまったであろう側、双方への配慮、声掛けが大切である。（学び推進課） 	
アンケート調査結果 《参考》	調査結果概要	問番号
統計データ等	<p>幸せに向かうために育てほしい非認知能力：他者への受容感 「自分とは違う考えや気持ちを持っている人の話でも、最初から否定しないで聞くことができる」に“肯定的”な割合が92%</p> <p>（令和6年度全国学力・学習状況調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分には、よいところがありますかについて、小学生では「当てはまる」が44.9%と最も高く、全国、茨城県より高くなっている。中学生では、「当てはまる」が40.7%と全国、茨城県より高い。 ●本の所持数について、101冊以上の割合が小学生で41.1%、中学生で32.7%と全国、茨城県より高い。 ●朝食を毎日食べているかについて、小学生では「している」が85.2%と全国や茨城県より高い。中学生では「している」が82.4%と最も高く、全国、茨城県より高い。 ●決まった時間に起床、就寝している割合が全国、茨城県より高い。 <p>○いじめの認知件数の推移【学び推進課】：令和5年度で小学生1,316件、中学生390件で増加傾向</p>	
次期計画に向けた課題	<p>施策1 豊かな心の育成</p> <p>本市では、子どもの豊かな心の育成のため、道徳教育や情操教育などの充実を図っており、令和6年度全国学力・学習状況調査結果をみると、自分には、よいところがあると思う割合は、小学生、中学生ともに全国、茨城県より高くなっています。生きる力の根っこにある「自尊感情」を育むことで、人とのつながりを大切にし、人を思いやることができます。</p> <p>今後も、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳教育を推進していくことが必要です。</p> <p>また、令和6年度全国学力・学習状況調査結果をみると、本の所持数について101冊以上の割合が小学生で41.1%、中学生で32.7%と全国、茨城県より高くなっています。</p> <p>その中で、読書活動における学校間で貸出数や利用者数に差があり、より効果的な取り組みが課題となっています。</p> <p>また、いじめの認知件数は増加傾向にあります。いじめは、児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であり、いじめ防止対策推進法に基づいた対応の徹底を図るとともに、いじめの未然防止、いじめの積極的な認知と早期の組織的対応、関係機関等との連携の推進などいじめ防止対策の強化に向けた取り組みが必要です。</p> <p>施策2 健やかな体の育成</p> <p>本市では、子どもの健やかな体の育成のため、保健学習や食育等の充実に努めています。令和6</p>	

つくば市教育振興基本計画 課題シート

年度全国学力・学習状況調査結果をみると、朝食を毎日食べている割合は、小学生、中学生ともに8割を超えており、全国、茨城県より高くなっています。また、決まった時間に起床、就寝している割合も全国、茨城県より高くなっており、規則正しい生活習慣が身につけている傾向がうかがえます。

今後も、肥満・痩身、アレルギー疾患、感染症、メンタルヘルスの問題など、複雑化・多様化する子どもたちの現代的な健康課題に対応するため、物乱用防止、心の健康、食に関する指導など、学習指導要領に基づき、体育科・保健体育科や特別活動をはじめ、学校教育活動全体を通じた体系的な保健教育を充実することが必要です。

また、学校での食育とともに、朝食の摂取率は家庭の影響が大きいため、家庭との連携を図り、さらなる推進を図っていくことが求められます。

今後も、食育の推進に向けた取組を継続するとともに、栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食に関する指導の体制整備が必要で

す。安全教育と防災教育では、様々な自然災害や多様な事件・事故の危険性がある現代社会においては、未知の状況でも適切な意思決定をし、行動することができるスキルや人間性の育成が求められています。今後も、家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校における安全教育、学校における安全管理、防災教育に取り組むことが必要です。

施策3 学びの場の感染症対策の徹底

本市では、学びの場の感染症対策として、体調が悪い場合の休養については家庭の判断に依存しており、無理して登校しているケースも見られます。また、集団感染のリスクに対応するためのマスク着用について、外すことへの不安を感じる児童・生徒がいます。さらに、重症化リスクが高い児童生徒には個別対応が求められますが、学校は一人ひとりに適した対応策を考慮する必要があります。教職員については、ICTの活用が情報過多や過度な監視感につながり、特に体調不良時や夜間・早朝の対応に配慮が必要です。また、感染が広がった場合は、感染した児童生徒の罪悪感に配慮することが必要です。

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本方針3 互いを認め合い、だれもが輝く教育を推進する

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標1 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成 目標4 グローバル社会における人材育成 目標5 イノベーションを担う人材育成 目標6 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成 目標13 経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 共生社会に向けたインクルーシブ教育の推進 施策2 教育相談体制の充実と多様な教育ニーズへの支援 施策3 だれもが学べる社会教育・生涯学習の推進</p>
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 共生社会に向けたインクルーシブ教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育への関心が高まるとともに、教育的ニーズが多様化している。個々のニーズに対応するためには、更なる研修の充実が課題である。(学び推進課・特別支援教育推進室) ・エレベーターの設置については、既存建築物にエレベーターを増築する場合、法の遡及適用を受け既存の不適合部分を改修する必要がある。建物全体の改修になり、大きな財政負担を強いられる。(教育施設課) ○児童生徒の相互理解を深め、豊かな人間性を育むための交流および共同学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・特に、通常の学級と特別支援学級との交流および共同学習については、個々の特性に応じた教育課程の編成が課題である。個別のアセスメントに基づいた編成をする必要がある。(学び推進課・特別支援教育推進室) ○帰国・外国人児童生徒への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中で日本語学習支援が必要な児童生徒が各学校に転入すると、日本語学習支援に必要な教員やボランティア、支援員に対する追加のニーズが高まる。ボランティアの時数や、日本語学習支援員の人数など、限られた人員等で適切な学習支援ができるよう調整していくことが課題である。(学び推進課) ○市民への人権尊重の啓発・教育活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級全般について言えることだが、参加者が少ないことが課題である。実施曜日、時間、形態等を工夫する必要がある。障害者のための生涯学習講座については、実施にあたって配慮を要する点が多いため、事業規模の拡大を図ることが難しい。参加者の自主性を重視するなど、質の向上に取り組んでいく必要がある。(生涯学習推進課) <p>施策2 教育相談体制の充実と多様な教育ニーズへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者の抱える教育上の悩みへの対応 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーにおいては、学校希望や相談件数のばらつきが見られる。面談の日程を調整する上で待機状況が生まれている学校もあるが、スクールカウンセラーの勤務日を調整するなど柔軟な対応を行っている。(教育相談センター・学び推進課) ○いじめ、不登校、貧困など困難を抱える子どもへの支援体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・相談センターや民間を含むフリースクール等関係機関と連携できない児童生徒もいることから、関わりがもてていない家庭への支援が課題である。(教育相談センター・学び推進課) <p>施策3 だれもが学べる社会教育・生涯学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習社会の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度からは、(仮称)第4次つくば市生涯学習推進基本計画を策定の上、生涯学習社会の実現を目指していくことになるため、市民の生涯学習の現状や市民意見を踏まえて、今後の生涯学習推進に取り組んでいく必要がある。(生涯学習推進課) ○生涯学習のための集いの場の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設の老朽化が進んでおり、計画的な更新が必要である。オンラインによる講座の開催については、効率良く受講できる利点はあるものの、受講者同士のつながりの希薄化、子育て等に対する不安を共有できる仲間ができにくい等の課題もあることから、慎重に実施方法を検討する必要がある。(生涯学習推進課) ○社会教育の振興

つくば市教育振興基本計画 課題シート

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員会議の開催回数を増やし、社会教育委員の意見交換等をより活発化させたいとの意見が委員より上がっている。(生涯学習推進課) ○家庭教育の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学校における家庭教育学級について、家庭教育学級役員の負担感や参加者が少ないことが課題である。社会情勢にあわせた実施方法とする必要がある。(生涯学習推進課) ○青少年の健全育成事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続するための青少年相談員の高齢化と新規登録者の確保。地域及び一人一人への活動に対する周知が必要。(生涯学習推進課) 	
アンケート調査結果 《参考》	調査結果概要	問番号
	幸せに向かうために育てほしい非認知能力：自己受容感 「自分には「よい」と思えるところがある」に“肯定的”な割合が84%	問33
	子どもが自己決定できる学校環境：安心できる学校環境 「学校には、自分の気持ちを分かろうとしてくれる仲間がいる」に“肯定的”な割合が92%	問22
	子どもが自己決定できる学校環境：安心できる学校環境 「学校には、自分の気持ちを分かろうとしてくれる先生や大人がいる」に“肯定的”な割合が87%	問23
	幸せに向かうために育てほしい非認知能力：自己効力感 「学校で困ったことがあったとき、誰かに助けを求めることができる」に“肯定的”な割合が83%	問39
統計データ等	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級数の推移【特別支援教育推進室】：令和6年度で234学級と増加傾向 ○不登校児童・生徒数の推移【学び推進課】：令和5年度で小学生360人、中学生449人と増加傾向 ○語学支援が必要な児童・生徒数の推移【学び推進課】：令和6年度で小学生199人、中学生39人 ○スクールカウンセラーの人数の推移【教育相談センター】：令和6年度で30人と増加 	
次期計画に向けた課題	<p>施策1 共生社会に向けたインクルーシブ教育の推進</p> <p>共生社会に向けたインクルーシブ教育の推進において、令和6年度で特別支援学級数は234学級と増加傾向となっています。特別支援教育に対する関心は高まっているものの、個別の教育的ニーズに対応するためには、更に研修の充実が求められます。今後も継続して、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進という理念に基づき、個別の指導計画を軸とした根拠ある合理的配慮の提供と、個に応じた多様な学びの場の充実に継続して取り組む必要があります。</p> <p>語学支援が必要な児童・生徒数は令和6年度で小学生199人、中学生39人となっています。帰国・外国人児童への支援では、限られたリソースで適切な学習支援を行うための調整が課題となっています。さらに、市民への人権尊重の啓発活動では、家庭教育学級への参加者が少ないことが問題であり、実施形態や時間帯の工夫が必要となっています。</p> <p>施策2 教育相談体制の充実と多様な教育ニーズへの支援</p> <p>本市のスクールカウンセラーの人数は令和6年度で30人と増加しています。教育相談体制においては、現状としてスクールカウンセラーの利用にばらつきがあり、学校によっては面談の日程調整に待機状況が発生しています。このため、スクールカウンセラーの勤務日調整を行うなど、柔軟な対応が求められています。</p> <p>また、本市の不登校児童・生徒数は、令和5年度で小学生360人、中学生449人と増加傾向にあります。いじめや不登校、貧困などの困難を抱える子どもたちへの支援体制の充実を進めていますが、教育相談センターや民間のフリースクールと連携できない児童生徒がいることが課題です。今後も、支援が行き届かない家庭に対して、更なるアプローチが重要であり、関係機関との連携強化が必要です。</p> <p>施策3 だれもが学べる社会教育・生涯学習の推進</p> <p>だれもが学べる社会教育・生涯学習の推進において、現状として、令和8年度から策定される「第4次つくば市生涯学習推進基本計画」に基づき、市民の意見を反映させた推進が求められています。社会教育施設の老朽化が進んでおり、計画的な更新が急務となっています。また、オンライン講座の開催には効率的な受講の利点がある一方、受講者同士のつながりの希薄化が課題となっています。家庭教育学級の参加者不足や役員の負担感もあり、柔軟な実施方法が必要です。さらに、青少年相談員の高齢化や新規登録者の確保が難しく、地域や個別の周知が課題です。</p>	

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本目標2 「学び」の多様性に対応する場と機会を整え、個性が花開く教育を推進する

基本方針4 学び続ける教職員を支援する

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標1 1 教育DXの推進・デジタル人材の育成 目標1 2 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化 目標1 5 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 連携・分担による学校マネジメントを実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>	
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 カリキュラム・マネジメントや授業改善に取り組む教職員への支援 施策2 教職員の「働き方改革」の推進</p>	
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 カリキュラム・マネジメントや授業改善に取り組む教職員への支援</p> <p>○教職員研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や学校のニーズに応じるため、様々な方法での研修を実施した。今後は、好事例の横展開を図るため、更なる資料や動画教材の共有も検討する。(総合教育研究所) <p>○教職員の人材育成と学校組織の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校をとりまく課題の多様化は年々増す一方であり、管理職のマネジメントにおける資質・能力の向上については引き続き注力すべき課題である。また、教員自身が自主的に研鑽が積めるマインドセットの構築やそのために生み出さなければいけない時間の確保が大変重要である。なお、研修の予算については、学校がより使いやすくするよう行政が学校と意見交換を重ね、工夫する必要がある。(学び推進課) <p>○教職員のメンタルヘルスケアの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校長の裁量による取組となるため、水平展開する方法の検討が必要である。(教育総務課) ・高ストレス者に対して産業医の面接指導を受診するよう勧奨しているが面接指導を受診する教職員が少ない。(健康教育課) <p>施策2 教職員の「働き方改革」の推進</p> <p>○外部人材との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール等との連携を図っていく必要がある。(教育総務課) ・部活動指導員の確保と地域移行における受け皿団体と学校部活動の円滑なマッチングが課題である。(学び推進課) <p>○サポートスタッフの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTについては、今後も定期的に研修を継続し、人材育成を図る必要がある。(学び推進課) ・スクールカウンセラーについては、研修等の充実を図り、資質向上を図るとともに、学校との連携を密にした組織的な対応を継続的に行うことが課題である。(教育相談センター) ・学校サポーター、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーについては、今後も継続して配置する。(教育総務課) <p>○校務の効率化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの帳票について、本市の帳票に合わせるように調整を図っている。手入力や二重登録をできるだけ省けるよう、引き続きカスタマイズしていく。また、学校全体の情報基盤の一元管理は、一部の業務にとどまっているため、今後さらに進めていく。(総合教育研究所) ・市会計年度任用職員の勤務報告関係について、事務処理の効率化の検討が必要である。(教育総務課) 	
<p>アンケート調査結果 <<参考>></p>	<p>調査結果概要</p>	<p>問番号</p>
	<p>学校生活の充実感 「先生とお話しする時間」に“肯定的”な割合が84%</p>	<p>問9</p>

つくば市教育振興基本計画 課題シート

統計データ等	—
次期計画に向けた課題	<p>施策1 カリキュラム・マネジメントや授業改善に取り組む教職員への支援</p> <p>本市では、カリキュラム・マネジメントや授業改善に取り組む教職員への支援として、社会や学校のニーズに応じた研修を実施しており、今後は好事例の横展開や動画教材の共有が求められます。</p> <p>学校を取り巻く課題の多様化に対応するためには、管理職のマネジメント能力の向上が不可欠です。また、教員が自主的に研鑽を積むための時間確保やマインドセットの構築が重要な課題となっています。さらに、教職員のメンタルヘルスケアでは、各学校長の裁量に依存しているため、水平展開方法の検討が必要であり、高ストレス教職員に対する産業医の面接指導受診率向上が必要です。</p> <p>施策2 教職員の「働き方改革」の推進</p> <p>本市では、教職員一人ひとりの資質能力と指導力の向上を図りながら、現状にとらわれず問い続けることのできる教職員の育成を促すなど人材育成に努めています。</p> <p>教職員の「働き方改革」においては、外部人材との連携強化が求められています。特に、コミュニティ・スクールとの連携や部活動指導員の確保・マッチングが課題となっています。</p> <p>また、サポートスタッフに関しては、ALT やスクールカウンセラーの研修を継続し、資質向上と学校との密接な連携が重要です。校務の効率化を進めている中で、校務支援システムのカスタマイズや情報基盤の一元管理を進める必要があり、市会計年度任用職員の事務処理効率化も検討課題となっており、教職員の業務の負担軽減と労働環境の改善が必要です。</p>

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本方針5 「学び」を保障する学校環境を整備する

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標1 1 教育DXの推進・デジタル人材の育成 目標1 2 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化 目標1 5 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 連携・分担による学校マネジメントを実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>	
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 学校施設・教育用備品等の充実 施策2 学校の安全体制の確立 施策3 学校等の適正配置 施策4 学校給食の充実</p>	
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 学校施設・教育用備品等の充実 ○学校施設の計画的な整備および施設の管理 ・昭和50年代に建設された学校施設が多く、築40年を経過し老朽化に伴う不具合が発生しているため、早急な改修が必要である。また、資材高騰や労務単価の上昇に起因した建設工事のコスト上昇は、今後実施していく建設や改修にあたって市の財政負担が大きい。(教育施設課)</p> <p>○教材および管理備品の計画的な整備 ・施設の老朽化同様、各学校の備品も古くなっている物の買い替えや未整備のものが多いため、優先順位をつけて計画的に整備することが重要である。(教育施設課)</p> <p>施策2 学校の安全体制の確立 ○防犯、防災体制の充実 ・様々な自然災害や多様な事件・事故の危険性がある現代社会においては、未知の状況にも適切な意思決定をし、行動することができるスキルや人間性の育成が求められている。このことから、常に情報をアップデートしたり、あらゆる場面に想定した訓練や会議を通してブラッシュアップしたりしていく必要がある。(学び推進課)</p> <p>・学校防災連絡会議については、各学校の地域特性や学校の規模に合わせた取組が実施できるよう、講師の情報提供等に努めていく必要がある。(教育総務課)</p> <p>○通学の安全確保 ・毎年度、各学校から通学路の点検要望箇所の報告をもらい、10月中旬～下旬にかけて教育委員会、学校、PTA、警察、県・市の道路担当部署とともに危険箇所の点検を行い、安全確保のための対策を協議する。点検結果については、1月下旬を目安にホームページで公表する。(学務課)</p> <p>施策3 学校等の適正配置 ○学校等の適正配置の推進 ・複式学級が見込まれる小規模化や、大規模マンション等の開発による人口増など、各学校それぞれの地域によって様々な課題があるため、地域住民との合意形成を図りながら学区の検討を進める必要がある。(学務課)</p> <p>施策4 学校給食の充実 ○学校給食センターの整備 ・つくば市で初めて炊飯設備を導入したため、供用開始までに十分なシミュレーションを行い、安定して米飯を提供できる体制を整える必要がある。(健康教育課)</p> <p>○安全・安心な学校給食の提供 ・大規模給食センターの出荷量に対応できる農産物が少ないことや献立と野菜の集荷時期が合わず、つくば市産を使用できないことが課題であり、生産者との会議や農業政策課との連携により改善を図っていく。(健康教育課)</p>	
<p>アンケート調査結果 ≪参考≫</p>	<p>調査結果概要</p>	<p>問番号</p>
	<p>学校生活の充実感 「給食の時間」に“肯定的”な割合が92%</p>	<p>問6</p>

つくば市教育振興基本計画 課題シート

統計データ等	—
次期計画に向けた課題	<p>施策1 学校施設・教育用備品等の充実 学校施設および教育用備品の整備に関して、昭和 50 年代に建設された学校施設が多く、築 40 年以上が経過しているため、老朽化に伴う不具合が発生しています。このため、早急な改修が求められていますが、資材や労務費の高騰が財政負担となり、改修工事のコスト上昇が課題です。 また、各学校の教材や管理備品も古く、未整備のものが多いため、優先順位をつけた計画的な整備が必要であり、これらの課題に対応するためには、限られた予算の中で効率的に整備を進めることが求められます。</p> <p>施策2 学校の安全体制の確立 現代社会における学校の安全体制の確立には、防犯や防災の強化が重要な課題です。自然災害や事件・事故のリスクに対応するためには、学校内で適切な意思決定と行動ができるスキルや人間性を育む必要があります。そのため、訓練や会議を通じて常に情報を更新し、さまざまな状況を想定した対応力を高めることが求められています。 また、学校防災連絡会議では、各学校の地域特性に合わせた対応が必要です。さらに、通学路の安全確保に向けて、毎年度の点検と対策協議を行い、危険箇所の改善を進めており、今後も継続的な安全確保が必要です。</p> <p>施策3 学校等の適正配置 学校等の適正配置については、複式学級が見込まれる小規模化や、大規模マンション等の開発による人口増加など、各学校それぞれの地域によって様々な課題があるため、地域住民との合意形成を図りながら学区の検討等を進める必要があります。</p> <p>施策4 学校給食の充実 学校給食の充実には、学校給食センターの整備と安全・安心な給食の提供が重要な課題です。つくば市では初めて炊飯設備を導入し、安定的な米飯提供体制を整えるため、シミュレーションを十分に行う必要があります。 また、地元産食材の使用を進めるためには、給食センターの出荷量に見合う農産物の確保が課題です。特に、献立と野菜の集荷時期の不一致により、市内産の使用が難しいことが問題となっています。このため、農業政策課や生産者との連携強化を図り、地元産食材の利用促進に努める必要があります。</p>

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本方針6 ICTを活用した教育を推進する

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標11 教育DXの推進・デジタル人材の育成 目標12 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化 目標15 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保 目標16 各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 連携・分担による学校マネジメントを実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>	
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 遠隔システムを活用したシームレス教育の充実 施策2 ICT教育環境の充実</p>	
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 遠隔システムを活用したシームレス教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○GIGAスクール構想の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用することが目的にならないよう、学習のめあてを明確にして、より効果的に学習者用端末を活用することができるようにする。引き続き好事例を共有・紹介し広く周知する必要がある。(総合教育研究所) ○個別最適な学びの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を適切に活用し、より深い学びや個別最適な学びに活用できるよう、学校での学習者用端末活用のルールだけでなく、家庭における活用のきまりを保護者とともに考える機会を設けることを検討する必要がある。(総合教育研究所) ○学校と家庭をつなぐシームレスな学びの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童生徒の学びを保障するため、非常時でも学習者用端末を活用した学びを進められるように、普段から遠隔システムを活用した学びの手順を習得し、慣れておくことが重要である。平常時に様々な形でオンラインを活用した学びを計画的に実施することによって、非常時にも学びの保障ができるようにするために、オンラインを活用した学びを年間指導計画に位置付ける必要がある。(総合教育研究所) <p>施策2 ICT教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT環境の計画的な整備 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末の活用頻度が上がり、活用するソフトウェアも多岐にわたるようになってきているため、継続してネットワークアセスメントを実施し、必要に応じてインターネット環境の更なる増強を検討する必要がある。(総合教育研究所) ○ICT活用を支援する人的配置 <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの要請に応じて支援をする要請サポートが増加している。学校のニーズにあった適切な支援ができるよう、今後、より支援員の研修を充実させる。(総合教育研究所) ○ICT教育に関するコンテンツや研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教材を活用した資料や生成AI活用事例資料等、ニーズに合わせて更新する必要がある資料もあるため、学校現場の要請に応じて共有資料の整備を進める。(総合教育研究所) 	
<p>アンケート調査結果 ≪参考≫</p>	<p>調査結果概要</p> <p>—</p>	<p>問番号</p>
<p>統計データ等</p>	<p>(令和6年度全国学力・学習状況調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器の利用頻度について、「ほぼ毎日」が26.3%と、全国、茨城県より高くなっている。(小学生) ●1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたかについて、「ほぼ毎日」が36.0%と最も高く、全国より高く、茨城県より低くなっている。(中学生) 	

つくば市教育振興基本計画 課題シート

次期計画に向けた 課題	<p>施策1 遠隔システムを活用したシームレス教育の充実</p> <p>遠隔システムを活用したシームレス教育の充実には、GIGA スクール構想の推進と個別最適な学びの確立が鍵となります。学習者用端末の導入が進み、児童生徒の ICT 機器の利用頻度が高まる中で、その活用が単なるツールとしての使用に終わらないよう、学習の目的と目標を明確に設定することが重要です。学びの効果を最大化するためには、端末の使用方法を教師がしっかりと指導し、好事例を共有することで、より広く周知し、実践に活かしていく必要があります。</p> <p>また、個別最適な学びを推進するために、学習者用端末を単に学習の補助ツールとしてではなく、深い学びに繋がる手段として活用することが求められます。特に、家庭と学校の連携が不可欠であり、保護者と一緒に家庭での活用ルールを考える場を設けることが、効果的な学びの環境を作るために必要です。</p> <p>さらに、非常時でも学びを保障できるよう、普段から遠隔システムを活用した学びの手順を習得し、年間指導計画に組み込むことが課題です。これにより、非常時にも学びの継続が可能な体制を整える必要があります。</p>
	<p>施策2 ICT教育環境の充実</p> <p>本市の ICT 教育環境においては、学習者用端末の活用頻度が増加し、それに伴うソフトウェアの多様化に対応するため、ネットワーク環境の継続的な評価と強化が求められます。インターネット環境の増強を検討し、安定した学習支援を提供することが重要です。</p> <p>また、学校の ICT 活用支援要請が増加している中で、支援員の研修を充実させ、ニーズに即した効果的な支援ができる体制を整備することが課題です。さらに、プログラミング教材や生成 AI 活用事例資料の更新も必要であり、学校現場の要請に応じて、ICT 教育に関するコンテンツや研修を充実させることが求められています。</p>

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本方針7 「学び」を支える施設を整備する

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標1 1 教育DXの推進・デジタル人材の育成 目標1 2 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化 目標1 5 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保 目標1 6 各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 連携・分担による学校マネジメントを実現する これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する</p>	
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 図書館サービスの充実 施策2 つくばの歴史・伝統文化を体験できる場の整備</p>	
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 図書館サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全で利便性の高い図書館サービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・現在、開館から34年が経過した中央図書館では、老朽化や構造上の不具合に起因する予定外の故障や・修繕が頻発しているため、修繕の予定を早めたり、順番の見直しを迫られる状況があり、それらに対応するための予算の確保が重要となっている。ただし経費は茨城県の負担金が伴うことから、予算確保は事前に茨城県との協議を行う必要がある。また、自動車図書館の車両1台が導入から20年以上経過しており車体等の劣化も進んでいるため更新が必要となっている。事業や業務内容が増えており、現在の組織体制では、業務を執行することが困難となっているため、係の増設が必要である。(中央図書館) ○資料の質的充実による市民サービスの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・市内唯一の公共図書館であるが、開館当初に比べ人口が大幅に増え、ニーズも多様化している。利用者から蔵書増の要望が多数寄せられているが、現在の書架数等の規模では、市民全体へのサービスを行うには十分とは言えない。新しい図書館の検討や電子図書館の充実が求められる。事業や業務内容が増えており、現在の組織体制では、業務を執行することが困難となっているため、係の増設が必要である。(中央図書館) ○図書館サービスの全域化 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車図書館のステーションの見直し、サービスポイントの増加に伴う配送要員と車両の確保、拠点増に対応するための配送回数及びルート継続的な見直しが必要となる。(中央図書館) <p>施策2 つくばの歴史・伝統文化を体験できる場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の保存活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・人口の増加に伴う開発対応のための埋蔵文化財調査が増加し、人員の不足が恒常化していることで、他の事業を圧迫している。調査・保存に重点を置かざるを得ない状況の中で、活用事業をバランス良く実施していくことが課題となる。(文化財課) ○伝統文化・郷土の歴史等に触れる機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で減少した学校授業での展示施設見学を回復させるとともに、動画配信や体験的活動等、学ぶ機会の多様化を図っていくことが課題である。また、展示施設についても、施設や設備の経年劣化に対応しながら、内容を充実させていく必要がある。(文化財課) 	
<p>アンケート調査結果 <<参考>></p>	<p>調査結果概要</p> <p>—</p>	<p>問番号</p>
<p>統計データ等</p>	<p>○図書館の利用状況の推移【中央図書館】：令和5年 貸出人数（中央図書館の個人・団体・相互貸借貸出人数。電子図書館等は除く）225,036人 貸出人数（電子図書館（令和4年10月～）13,164人 増加傾向</p>	

つくば市教育振興基本計画 課題シート

次期計画に向けた 課題	<p>施策1 図書館サービスの充実</p> <p>本市の図書館サービスにおいては、老朽化が進む中央図書館の修繕や、20年以上経過した自動車図書館の車両更新が急務となっています。</p> <p>また、市民の多様化するニーズに応えるため、蔵書の増加や新しい図書館、電子図書館の充実も求められています。現在の組織体制では業務が増加しており、係の増設や、自動車図書館のサービス拡大にはステーションや配送体制の見直し、配送要員の確保が不可欠となっています。</p> <p>施策2 つくばの歴史・伝統文化を体験できる場の整備</p> <p>つくば市の歴史や伝統文化を体験できる場の整備には、文化財の保存と活用のバランスが重要です。人口増加に伴い、埋蔵文化財調査が増加し、対応する人員不足が課題となっています。</p> <p>また、学校での展示施設見学が新型コロナウイルスの影響で減少したため、これを回復させるとともに、動画配信や体験的な学びの機会を増やす必要があります。さらに、展示施設の経年劣化に対応し、展示内容を充実させることも必要です。</p>
----------------	---

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本目標3 地域に支えられ、共に学び育ち合う教育を推進する。

基本方針8 つくばらしさをいかした「学び」を推進する

国の方針	<国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標8 生涯学び、活躍できる環境整備	
現行計画の方向性	施策1 つくばの特性をいかした学びの推進	
現状の取組と課題	施策1 つくばの特性をいかした学びの推進 ○「科学のまち」の特性をいかした学びの推進 ・児童生徒の科学への気付きを与える点で教育的効果が高いが、つくばちびっ子博士・つくば科学出前レクチャー・つくば科学フェスティバル実施のための業務負担が大きい。デジタル化の推進や業務フローの見直しなどの業務効率の改善を行いつつ、今まで以上に学びを深めることができるコンテンツ作りに努める必要がある。(生涯学習推進課) ○豊かな自然・文化をいかした学びの推進 ・授業を行うのは学校の教師となるため、まず教師に市内の歴史や文化、自然の特徴を知ってもらうことが必要となる。また、市が持っている資料や情報を、学校で使いやすいような教材として提供していく必要がある。(文化財課)	
アンケート調査結果 《参考》	調査結果概要	問番号
	—	
統計データ等	—	
次期計画に向けた課題	施策1 つくばの特性をいかした学びの推進 つくばの特性を生かした学びを推進していくためには、「科学のまち」としての特徴を活用することが重要です。科学への気付きを促す活動(つくばちびっ子博士、出前レクチャー、科学フェスティバルなど)は教育的効果が高い一方で、業務負担が大きいため、デジタル化や業務フローの見直しとともに、効率化を図りながら、学びの深さを増すコンテンツづくりが必要です。 また、豊かな自然や文化を生かした学びを進めていくためには、教師が市内の歴史や文化、自然を理解することが重要であり、市が持つ資料を活用し、学校で使いやすい教材の提供が必要です。	

つくば市教育振興基本計画 課題シート

基本方針9 「学び」を支える協働体制を充実する

<p>国の方針</p>	<p><国 第4期教育振興基本計画> 今後5年間の教育政策の目標と基本施策 目標9 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上 目標10 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進 目標14 NPO・企業・地域団体等との連携・協働</p> <p><「令和の日本型学校教育」の構築を目指して> 連携・分担による学校マネジメントを実現する 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する</p>	
<p>現行計画の方向性</p>	<p>施策1 社会全体で支える子どもたちの学び 施策2 家庭への支援の充実</p>	
<p>現状の取組と課題</p>	<p>施策1 社会全体で支える子どもたちの学び ○学校・家庭・地域・行政の連携・協働 ・コミュニティ・スクールの導入は順調に進んでいるが、今後は、持続可能な運営体制の構築や、地域との信頼関係の構築、より積極的な地域人材との連携が課題となっている。（生涯学習推進課） ・コミュニティ・スクール等との連携を図っていく必要がある。（教育総務課） ○家庭や地域の教育力の向上 ・各学校における家庭教育学級への参加者が少ないことが課題である。実施形態、曜日、時間等の工夫が必要である。オンラインや動画配信による講座の開催については、効率良く受講できる利点はあるものの、受講者同士のつながりの希薄化、子育て等に対する不安を共有できる仲間ができてにくい等の課題もあることから、慎重に実施方法を検討する必要がある。（生涯学習推進課） ○公民連携で推進するフリースクール等地域資源の活用 ・トライグループに運営を委託している「ここに広場」の委託終了に伴い、通所していた児童生徒の次の居場所確保に向けた支援は課題である。フリースクールの運営においては、運営側の方針や特色が異なるため、フリースクールでの子どもの学習の様子や生活等の状況について、学校と共有を図りながら、継続的な支援を行っていくことが課題である。（学び推進課） ・引き続き、地域のスポーツ団体等から専門性の高い人材の確保に努める必要がある。（教育総務課）</p> <p>施策2 家庭への支援の充実 ○放課後等の学習支援の充実 ・地域に根差し、学校や生徒と信頼関係を築ける学習チューターや、市内広範囲で活動できる学習チューター等、より質の高いチューターを確保することが課題となっている。（生涯学習推進課） ○スクールソーシャルワーカー配置によるサポート強化 ・保護者や家庭が抱える問題は多様であるため、ソーシャルワーカーには、多様なケースに対応する対応力や専門的な知見が必要となる。事例研修を含む研修の在り方や資質向上を行い、人材育成も課題である。（教育相談センター） ○福祉との連携による支援の充実 ・関係課がもっている情報等についての共有や学校間との連携について支援や対応の方向性がずれないような連携が引き続き必要である。（学び推進課）</p>	
<p>アンケート調査結果 ≪参考≫</p>	<p>調査結果概要</p>	<p>問番号</p>
<p>統計データ等</p>	<p>○校内フリースクールの在籍児童・生徒数、校内フリースクール設置学校数の推移【学び推進課】：令和5年度 校内フリースクールの在籍児童・生徒数 377人、校内フリースクール設置学校数 23校</p>	
<p>幸せに向かうために育てほしい非認知能力：社会貢献意識 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に“肯定的”な割合が81%</p>	<p>問41</p>	

つくば市教育振興基本計画 課題シート

次期計画に向けた 課題	<p>施策1 社会全体で支える子どもたちの学び</p> <p>本市では、社会全体で子どもたちの学びを支えるため、コミュニティ・スクールの導入を進めており、持続可能な運営体制の構築や地域との信頼関係の深化、積極的な地域人材との連携が継続する必要があります。</p> <p>また、家庭教育学級への参加者が少なく、実施形態や時間帯を工夫する必要があります。オンライン講座はメリットがある一方、受講者同士のつながりの希薄化や子育てに対する不安を共有できる場が不足する点が課題となっています。</p> <p>令和5年度で校内フリースクールの在籍児童・生徒数 377 人、校内フリースクール設置学校数は 23 校となっています。フリースクールにおいては運営方針の違いによる学習・生活状況の共有が課題であり、学校との連携を強化とともに、地域のスポーツ団体から専門性の高い人材の確保が継続的に必要です。</p>
	<p>施策2 家庭への支援の充実</p> <p>本市では、家庭への支援の充実を図っている中で、放課後の学習支援では、地域に根ざし、学校や生徒との信頼関係を築ける質の高い学習チューターの確保が必要となっています。特に、市内広範囲で活動できるチューターの確保が求められています。</p> <p>また、スクールソーシャルワーカーは、多様な家庭問題に対応するための専門的な知見や対応力が求められており、研修や人材育成の強化が必要です。さらに、困難を抱える世帯の子どもに対する支援については、福祉の関係課との情報共有や学校間での対応が機能するように、引き続き一貫した連携が必要です。</p>

つくば市教育振興基本計画施策体系（第3期・第4期）

「第3期つくば市教育振興基本計画」の施策体系				見直しの要素		「第4期つくば市教育振興基本計画」の施策体系			
基本理念	基本目標	基本方針	施策	国の方針・市の方向性	○市の取組 ●市の課題	基本理念	基本目標	基本方針	施策
夢に向かってよりよい未来をひらく 「学び」の実現	基本目標1 幸せな人生を送るために一人ひとりの「学び」を大切に	1 未来をひらく力を育む	1 個別・双方向の学びの推進	【国の方針】 新たな教育振興基本計画（令和5年度～9年度） 今後の教育政策に関する基本的な方針 ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成 ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進 ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進 ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進 ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話 【市の方向性】 第2期つくば市戦略プラン 2020▶2024 基本施策Ⅲ-2 個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む ■目指すべき未来 2030年の未来像 子どもたちは、自分の好きなことを見つけ、個性を伸ばしながら、未来を切り拓いていく力を育んでいます。	●学校ごとに異なる状況やニーズに対応するため、それぞれの学校に合ったアプローチが求められる ●保育者が発達段階を理解し、日々の観察に基づいて適切な支援を行うことが求められる ○「幸せな学校づくりに向けたアンケート」を継続して実施する ●読書活動における学校間で貸出数や利用者数に差があり、読書活動の推進のためより効果的な取組が必要 ●重症化リスクが高い児童生徒など、一人ひとりに適した対応策の考慮が必要 ○市独自の日本語学習支援員を配置 ○不登校の児童生徒への支援体制の充実（校内フリースクール等） ●社会教育施設の老朽化が進んでおり、計画的な更新が必要 ○教育大綱の理念を実現するため、市独自の研修を実施 ●教職員の業務の負担軽減と労働環境の改善（部活動の地域移行等） ●各学校の教材や管理備品の優先順位をつけた計画的な整備 ●訓練や会議を通じて常に情報を更新することが必要 ●地域にとり様々な課題があり、地域住民との合意形成を図りながら検討を進めることが必要 ●地元産食材の利用促進のため、農産物の確保が必要 ○学習用端末やネットワーク・クラウド環境の整備 ●プログラミング教材や生成AI活用事例資料の更新 ○自動車図書館の増設及び更新 ●動画配信や体験的な学びの機会を増やす ●デジタル化や業務フローの見直しとともに、効率化を図りながら学びの深さを増すコンテンツづくりが必要 ○体験型科学教育「つくばSTEAMコンパス」の推進 ○令和7年度末までに市内全学園でのコミュニティ・スクールの導入を目指す ●地域に根差し、学校や生徒との信頼関係を築ける質の高い学習チューターの確保が必要				
			2 幼児教育の充実						
			3 学校外の学びの充実						
		2 豊かな心と健やかな体を育む	1 豊かな心の育成						
			2 健やかな体の育成						
			3 学びの場の感染症対策の徹底						
		3 互いを認め合い、だれもが輝く教育を推進する	1 共生社会に向けたインクルーシブ教育の推進						
			2 教育相談体制の充実と多様な教育ニーズへの支援						
			3 だれもが学べる社会教育・生涯学習の推進						
	基本目標2 「学び」の多様性に対応する場と機会を整え、個性が花開く教育を推進する	4 学び続ける教職員を支援する	1 カリキュラム・マネジメントや授業改善に取り組む教職員への支援						
2 教職員の「働き方改革」の推進									
5 「学び」を保障する学校環境を整備する		1 学校施設・教育用備品等の充実							
		2 学校の安全体制の確立							
		3 学校等の適正配置							
		4 学校給食の充実							
6 ICTを活用した教育を推進する	1 遠隔システムを活用したシームレス教育の充実								
	2 ICT教育環境の充実								
7 「学び」を支える施設を整備する	1 図書館サービスの充実								
	2 つくばの歴史・伝統文化を体験できる場の整備								
基本目標3 地域に支えられ、共に学び育ち合う教育を推進する	8 つくばらしさをいかした「学び」を推進する	1 つくばの特性をいかした学びの推進							
		1 社会全体で支える子どもたちの学び							
	9 「学び」を支える協働体制を充実する	2 家庭への支援の充実							